

- 問1 白河上皇が院政を開始した背景とその政治的目的について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2017年 沖縄県公立入試 類似)
1. 摂関家との血縁が薄い後三条天皇の即位により、藤原氏による専制が弱まったことを受け、上皇自らが実権を握ろうとした。
 2. 土地の国有化を進める班田収授法が機能しなくなったため、新しい戸籍制度を確立して律令国家を再建しようとした。
 3. 平氏や源氏といった武士の力が強大になったため、それらを鎮圧するために天皇が退位して軍事権を握ろうとした。
 4. 仏教勢力の強まりに対抗するため、上皇は出家して法皇となり、寺院の武装化（僧兵）を完全に禁止しようとした。
- 問2 平安時代中期、朝廷が地方統治の仕組みを大きく転換し、国司に強力な権限を与えた背景と徴税方法の変化について正しく説明しているものはどれですか。 (2023年 石川県公立入試 類似)
1. 戸籍によって決められていた従来の徴税が困難になったため、国司が税額を決め、一定の額を朝廷に納めることを条件に現地の支配を任せるようになった。
 2. 租・庸・調の制度を維持するために、国司の権限を縮小させ、朝廷から派遣された検非違使が直接税を徴収する仕組みを整えた。
 3. 墾田永年私財法によって私有地が拡大したため、国司の徴税権を廃止し、土地の所有者が直接朝廷へ納税する制度へと移行した。
 4. 公地公民の原則を徹底するため、国司が農民から徴収したすべての税を一度朝廷へ送り、その後に各地へ分配する仕組みに改められた。
- 問3 平安時代中期、藤原氏は自分の娘を天皇の后（きさき）とし、その間に生まれた子を次の天皇に立てることで実権を握りました。天皇が幼少である期間に、その職務を代行する役職として正しいものはどれですか。 (2026年 愛媛県公立入試 類似)
1. 関白
 2. 摂政
 3. 太政大臣
 4. 執権
- 問4 11世紀半ば、摂政を務めた藤原頼通が宇治に建立した建築物を選びなさい。この建物は、当時の貴族の間に広まった、死後に極楽浄土へ生まれ変わることを願う信仰に基づき、阿弥陀如来像が安置されていることで知られています。 (2022年 徳島県公立入試 類似)
1. 法隆寺五重塔
 2. 中尊寺金色堂
 3. 平等院鳳凰堂
 4. 東大寺南大門
- 問5 894年に、唐の国内情勢の混乱や往復する航路の危険性を理由として、遣唐使の派遣が停止されました。この政策転換を主導した人物と、その後発達した日本独自の文化の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2022年 愛媛県公立入試 類似)
1. 最澄 — 弘仁・貞観文化
 2. 小野妹子 — 飛鳥文化
 3. 阿倍仲麻呂 — 天平文化
 4. 菅原道真 — 国風文化
- 問6 東北地方の歴史について述べた次の文のうち、当時の状況を正しく説明しているものはどれですか。かつて朝廷軍を打ち破ったこともある蝦夷のリーダーと、その後に派遣された政府側の人物の関係に注目して選びなさい。 (2015年 佐賀県公立入試 類似)
1. 蝦夷の指導者であった足利尊氏は、朝廷から派遣されたアテルイによって捕らえられた。
 2. 蝦夷の指導者であった平将門は、朝廷から派遣された坂上田村麻呂に敗北した。
 3. 蝦夷の指導者であったアテルイは、朝廷から派遣された坂上田村麻呂に降伏した。
 4. 蝦夷の指導者であったアテルイは、朝廷から派遣された源頼朝を北九州で迎え撃った。
- 問7 桓武天皇が実施した政策について述べた文章において、当時の東北地方に対する動向として正しいものはどれですか。 (2026年 滋賀県公立入試 類似)
1. 唐から帰国した最澄や空海を東北へ派遣し、仏教の力で現地の有力者を教化しようとした。
 2. 東北地方に金が豊富にあることが分かったため、奥州藤原氏に中尊寺金色堂を建立させて管理を任せた。
 3. 独自の勢力を保っていた蝦夷と和平を結び、多賀城を拠点とした自由な交易を奨励した。
 4. 征夷大將軍を任命して大軍を派遣し、蝦夷と呼ばれた人々の居住地を制圧して支配域を拡大した。
- 問8 8世紀から9世紀にかけての日本および世界の情勢に関する記述として、最も適切なものを選びなさい。 (2016年 大分県公立入試 類似)
1. 新羅が朝鮮半島を統一したのと同時期に、日本にはじめて稲作が伝来し、その記念として遣唐使の派遣が始まった。
 2. フランス革命や産業革命などの資本主義の動きが活発化した時期に、日本では平安京の建設が行われ、遣唐使が盛んに派遣された。
 3. 日本では墾田永年私財法によって土地の私有が認められるようになり、その後平安京への遷都を経て、大陸の情勢変化を受け遣唐使が廃止された。
 4. 卑弥呼が中国の魏に使いを送った時期と同時期に、イスラム教が成立し、それを受けて日本は平安京への遷都を決定した。
- 問9 平安時代中期に、それまでの中国の影響を強く受けた文化から、日本独自の「国風文化」へと変化していった背景を説明した文として、最も適切なものを選んでください。 (2021年 新潟県公立入試 類似)
1. 遣唐使の派遣が停止されたことで、海外の文化を消化し、日本の風土や生活感覚に合うように作り替える動きが強まったため。
 2. 律令国家の体制が整い、大陸の進んだ政治制度や宗教をそのまま取り入れることが国家の急務となったため。
 3. 承久の乱によって朝廷の権力が弱まり、貴族がこれまでの伝統を捨てて新しい文化を模索し始めたため。
 4. 日宋貿易の拡大によって大量の宋銭や陶磁器が流入し、それらが貴族の邸宅で使われるようになったため。
- 問10 平安時代末期に平氏が推進した対外関係や文化的な取り組みについて述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2026年 徳島県公立入試 類似)
1. 宋との貿易を盛んに行うとともに、海上交通の安全を祈願して厳島神社の社殿を整えた。
 2. 唐との貿易を推進し、平城京を中心とした国際色豊かな文化を築いた。
 3. 明との間で勘合貿易を行い、瀬戸内海の高瀬を鎮圧した。
 4. 朝鮮半島から鉄の輸入を拡大するため、全国に守護と地頭を設置した。
- 問11 平安時代の中期、894年に菅原道真の建議によって遣唐使が停止されたことをきっかけに、これまでの大陸文化を日本の風土や好みに合わせて消化した貴族中心の文化が発達しました。この文化において、日本人の感情を表現するために漢字を簡略化したり、その一部をとったりして作られた文字を何といいますか。 (2017年 大阪府公立入試 類似)
1. かな文字
 2. 梵字
 3. ハングル
 4. 楔形文字
- 問12 平安時代中期、社会の混乱や末法思想の広まりを背景に、阿弥陀如来を信じ、ある言葉を唱えることで死後に極楽浄土へ生まれ変わることを願う信仰が流行しました。このとき唱えられた言葉として正しいものはどれですか。 (2023年 滋賀県公立入試 類似)
1. 読経
 2. 座禅
 3. 念仏
 4. 題目
- 問13 平清盛は、娘の徳子を高倉天皇の后とし、その間に生まれた子を安徳天皇として即位させることで、天皇の親戚（外戚）として権力を強めました。このような平氏の政治手法は、かつて平安時代中期に摂政や関白となって実権を握ったどの家系の手法を模したものとと言えますか。 (2021年 福岡県公立入試 類似)
1. 蘇我氏
 2. 足利氏
 3. 北条氏
 4. 藤原氏

答え合わせ・解説

問1	答え 1 摂関家との血縁が薄い後三条天皇の即位により、藤原氏による専制が弱まったことを受け、上皇自らが実権を握ろうとした。	院政が始まる直接の背景には、藤原氏を外戚（母方の親戚）に持たない後三条天皇が即位し、摂関家を軽視する政治を行ったことがあります。その子である白河天皇は、この流れを引き継いで退位後に院政を始め、藤原氏から政治の主導権を奪い返しました。
問2	答え 1 戸籍によって決められていた従来の徴税が困難になったため、国司が税額を決め、一定の額を朝廷に納めることを条件に現地の支配を任せるようになった。	平安時代中期になると、農民の逃亡などにより、戸籍に基づいた班田収授や税の徴収が正しく行えなくなりました。そこで朝廷は、国司に地方政治を大幅に委ねる方針に転換しました。これにより、国司は朝廷から求められた一定の税を納めれば、現地の税額を自分の裁量で決め、統治を行う権限を持つようになりました。
問3	答え 2 摂政	藤原氏は、天皇が幼少のときには「摂政」、成人した後には「関白」という役職に就いて政治を動かしました。これらを合わせて摂関政治と呼び、藤原北家が代々その地位を独占しました。
問4	答え 3 平等院鳳凰堂	藤原氏の全盛期を築いた藤原道長の子、頼通が宇治の別荘を寺に改めたものです。当時の社会では、仏教の教えが衰える「末法」の世が到来したと考えられており、極楽浄土の様子を地上に再現しようとしてこの豪華な阿弥陀堂が建てられました。
問5	答え 4 菅原道真 ― 国風文化	菅原道真は、唐の衰退という国際情勢を的確に判断し、遣唐使の停止を建議しました。これにより大陸文化の直接的な影響が薄まり、日本の風土や感性に合わせた「国風文化」が花開くこととなりました。かな文字の発明や、住居様式の寝殿造などはその代表的な例です。
問6	答え 3 蝦夷の指導者であったアテルイは、朝廷から派遣された坂上田村麻呂に降伏した。	東北地方に住んでいた蝦夷の人々は、アテルイという指導者のもとで一時は朝廷軍を撃退するほどの激しい抵抗を見せました。しかし、桓武天皇によって派遣された坂上田村麻呂が軍を進め、現在の岩手県に胆沢城を築くなどして支配を強めると、アテルイは最終的に坂上田村麻呂に降伏しました。
問7	答え 4 征夷大將軍を任命して大軍を派遣し、蝦夷と呼ばれた人々の居住地を制圧して支配域を拡大した。	当時の朝廷は、支配が及んでいなかった東北地方北部への勢力拡大を目指していました。桓武天皇は坂上田村麻呂を派遣して軍事的に蝦夷を制圧し、胆沢城を築いて鎮守府をそこに移すなど、政治・軍事の両面で支配を固めました。奥州藤原氏が登場するのは平安時代後期であり、この時期の状況とは一致しません。
問8	答え 3 日本では墾田永年私財法によって土地の私有が認められるようになり、その後平安京への遷都を経て、大陸の情勢変化を受け遣唐使が廃止された。	8世紀の奈良時代には墾田永年私財法によって私有地である「荘園」が生まれるきっかけが作られました。その後、794年に平安京へ都が移り、9世紀末の894年には、唐の衰退や日本独自の文化の発展（国風文化）を背景として遣唐使が廃止されました。フランス革命や資本主義の台頭は18世紀以降の近代の出来事であり、古代の日本史とは時期が大きく異なります。
問9	答え 1 遣唐使の派遣が停止されたことで、海外の文化を消化し、日本の風土や生活感覚に合うように作り替える動きが強まったため。	9世紀末に遣唐使が派遣されなくなったことで、先進的な中国文化が直接入ってこなくなり、それまでに蓄積された大陸文化を日本人の感性に合わせて「和風化」させる余裕が生まれしました。これが、貴族たちの日常生活に根ざした独自の文化へと発展する大きな要因となりました。
問10	答え 1 宋との貿易を盛んに行うとともに、海上交通の安全を祈願して厳島神社の社殿を整えた。	平清盛は兵庫の港を整備して日宋貿易（宋との貿易）を進めました。また、瀬戸内海の上交通の安全を祈願するため、厳島神社の社殿を整えたことで知られています。
問11	答え 1 かな文字	遣唐使の廃止によって大陸との直接的な交流が途絶えたことで、それまでの唐風の文化から、日本の自然や日本人の感性を重視する「国風文化」へと変化しました。この時期に「かな文字」が考案されたことで、『源氏物語』や『枕草子』などの物語や随筆、和歌が数多く生み出され、国文学が大きく発展しました。
問12	答え 3 念仏	平安時代中期、貴族から庶民の間で、阿弥陀如来にすがって極楽浄土への往生を願う浄土信仰が急速に広まりました。「南無阿弥陀仏」と唱える念仏は、複雑な修行を必要としないため、不安な社会情勢の中で多くの人々に受け入れられました。これに対し、題目は鎌倉時代の法華宗（日蓮宗）で重んじられた修行であり、座禅は禅宗で行われる修行です。
問13	答え 4 藤原氏	平清盛は、自分の娘を天皇の後（中宮）として送り込み、生まれた子を次の天皇に立てることで政治的な発言力を強めました。これは、平安時代中期に藤原氏が摂関政治を行う際に用いた「外戚（母方の親戚）関係を利用した権力掌握」と同じ手法です。武家政権でありながら、形式としては従来の貴族政治の仕組みを継承していました。